

アサリの加入量決定機構の解明

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010182

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アサリの加入量決定機構の解明

中央水産研究所 浅海増殖部 海洋生産部
瀬戸内海区水産研究所 生産環境部

研究の背景・目的

1. 我が国のアサリ漁獲量は近年低迷していますが、その減少要因は解明されていません。
2. アサリ稚貝の生残と成長を食性及び餌料環境と対比させつつ、定量的に評価します。

研究成果

1. アサリ稚貝の簡易定量法を開発し、多量の野外試料を対象としたアサリの同定が可能となりました。中津干潟においては、着底後の死亡減耗が逸散を上回することを明らかにしました。
2. アサリ貝殻の成長線は1日2本形成されることを確認し、春に着底した稚貝が高い生残率を示すこと、海底直上水のクロロフィル *a* 濃度で示される餌条件が、成長速度を左右する主要因であるこ

とを明らかにしました。

3. アサリ稚貝は成長に伴って食物組成・サイズを変化することを確認し、底生微細藻類が重要な餌生物であることを明らかにしました。

波及効果

- 地先ごとにアサリの発生から成貝までの資源の動態と減耗要因を網羅的に把握することが可能となり、アサリ資源減少要因の解明に重要な地域特性の把握が期待できます。
- 殻成長線による成長評価法は、干潟の生産力の評価にも利用可能です。また、底生珪藻のサイズ組成も加えた餌条件に関する知見は、干潟の餌料環境評価につながるものと期待されます。

